目次

下巻

第三編　近現代

第一章　政治

第一節　神原村と平岡村の誕生……3
一　村を管轄する行政の変遷……3
二　「自然村」から「行政村」への変質……7
三　神原村と平岡村の誕生……11
四　発足時の神原、平岡両村の村勢……19
五　重税負担となった地租改正……30
第二節　新しい村体制の確立……37
一　大区小区制の廃止と村の復活……37
二　戸長官選と連合村の形成……41
三　新しい村体制の確立……44
第三節　村の変容と発展……53
一　村会議員選挙をめぐる騒動……53
二　膨張する村財政と教育費負担の重圧……57
三　王子製紙の進出とブームにわく平岡村……61
四　平岡村の発展……66
第四節　経済恐慌と戦時下の村……73
一　経済恐慌と農村経済更生運動……73
二　慎重であった満州移民……79
三　急速に進む軍国翼賛体制……85
第五節　戦後改革と民主化の進展……90
一　敗戦直後の村の光景……90
二　公職追放と隣組の解散……93
三　峠山の開拓……95
四　農地改革……99
五　労働組合等の結成……102
六　新しい村の体制と村政に対する高い関心……104
第六節　平岡ダム・佐久間ダム工事の被害補償交渉とそれをめぐる問題……108
一　平岡ダム工事の被害補償問題等……108

二　佐久間ダム工事の被害補償問題等……113
第七節　平岡、神原両村の合併と新「天龍村」の発足……118
一　合併の背景と県の両村に関する合併計画……118
二　平岡、神原両村の合併実現にいたるまでの経緯……122
三　天龍村の新体制発足……128
四　新しい村の展望――天龍村建設計画……130
第八節　基盤整備と新しい村づくり……134
一　村の一体化推進と台風災害……134
二　合併一〇周年……139
三　新しい村づくりと過疎化の進行……150
四　早木戸発電所建設とその補償……162
第九節　深刻化する過疎と再生へ向けての取組み……167
一　深刻化する過疎……167
二　「生きがいの創出と心の空白を埋める」新しいフロンティアの開発……178
三　行政改革と議員定数の削減……182
四　天龍村誕生四〇周年と再生へ向けての取組み……189
附節　歴代村長・村議会議員等一覧……196
一　市制・町村制施行（明治二二年）以前の名主・戸長……196
二　市制・町村制施行後の村長……198
三　村議会議員……206
四　助役……212
五　収入役……214
第二章　産業経済……216
第一節　概要――「産業」から「生業」へ……216
第二節　林業……220
一　森林・林業の特質……220
二　植林の思想とその実践者たち……227

三　植林・伐採事業の開始とその進展……233
四　強制伐採（乱伐）、戦後復興、そして拡大造林……240
五　構造改善事業と林業活動の停滞……247
六　森林・林業の現状……259
七　森林組合……265
第三節　農　業……273
一　焼畑と楮――平岡、神原両村発足当時の情景……273
二　用水開削と開拓移住……280
三　養蚕に生きる……289
四　米をつくる……305
五　農業構造の変貌……312
六　農業協同組合と農業共済組合……319
第四節　地場産業（特産品）……329
一　畜産……329
二　茶……331
三　柚餅子……333
四　梅（小梅）……335
五　木炭……336
六　木彫鳩時計枠製造と養蜂……338
第五節　その他の産業……339
一　建設……339
二　砂利採取……342
三　商業……343
四　観光……347
五　飯田線と村内の駅……349
六　銀行・信用金庫……351
第三章　教　育……353
第一節　「学制」以前の教育……353
第二節　明治・大正期の教育……355
一　近代教育の黎明……355
二　明治期教育制度の変遷……366
三　明治・大正期の風景……384
四　天皇と村の学校……397

第三節　昭和・戦前の教育……410
一　昭和期の風景……410
二　戦前の学校統合……427
三　戦時教育への系譜……439
四　戦時下の風景……457
第四節　戦後の教育……474
一　昭和二十年度の風景……474
二　朝鮮人学校の消息……482
三　新教育建設の時代……495
四　戦後教育の歩み……509
五　分校と統合……523
第五節　社　寺……540
一　神社……540
二　仏寺……542
第四章　社　会……543
第一節　保健衛生……543
一　明治以降の衛生行政と伝染病……543
二　衛生組合の設置……545
三　明治末期から大正期にかけての病禍と衛生行政……548
四　昭和期の伝染病とその対策……549
五　戦後の衛生行政……549
六　国民健康保険組合……551
七　保健医療……552
八　天龍村診療所の開設……557
九　川島診療所……557
一〇　歯科医……558
一一　助産婦……559
一二　鍼灸接骨医院……559
一三　県立阿南病院……560
一四　飲料水と水利用……560
一五　戦後の上・下水道……562
一六　天龍村簡易水道組合……563
一七　屎尿処理と下水道の設置……564
一八　塵芥処理……565

一九　火葬場の設置とその運用……566
第二節　災　害……567
一　昭和四十三年集中豪雨および台風一〇号による災害……570
二　平成三年小沢地籍の山崩れ……573
第三節　消防と火災……574
一　消防の近代化……574
二　平岡消防組の設置……576
三　公設平岡消防組の設置……578
四　消防組の活動とその役割……580
五　災害予防……582
六　林野火防……583
七　平岡消防組の合併問題……585
八　警防団と総動員……586
九　戦後の消防組織……587
一〇　防災行政無線……588
一一　広域消防組合……590
第四節　福祉行政……590
一　第二次大戦以前の社会福祉行政……590
二　第二次大戦後の社会福祉行政……594
三　年金制度……596
四　社会福祉施設……597
五　保健婦制度……603
六　ホームヘルパー制度……604
七　訪問看護制度……605
第五節　各種団体……605
一　青少年の組織……605
二　壮年団……619
三　婦人会……621
四　第二次大戦後の各種団体……625
第六節　兵　事……631
一　近代軍隊制度の導入と村……631
二　村の軍事後援会……635
三　大正期・昭和期の兵制と村……636
四　満州移民と義勇軍……637
五　昭和期の村と戦争……638

六　敗戦後の村……640
七　戦没者とその慰霊祭……641
第七節　警　察……652
一　明治期における警察機構の変遷……652
二　大正・昭和期の警察と村……659
三　戦後警察の変遷……662
四　神原地区の戦後駐在所……663
第八節　国・県の出先機関……665
一　郵便局……665
二　長野地方法務局天龍出張所……669
三　飯田営林署平岡貯木場……670
四　飯田建設事務所南支所……672
五　飯田測候所平岡気象通報所……672
六　専売公社平岡たばこ販売所……673

第四編　民　俗

第一章　民俗生活……677
第一節　社会生活……677
一　ムラ、共同生活……677
二　家族……688
第二節　生産・生業……706
一　稲作……707
二　畑作……713
三　焼畑（山作り）……724
四　養蚕……731
五　換金作物……734
六　牧畜……743
七　山の生業……744
八　漁撈……751
九　手工業……754
第三節　日々のくらし……755

一　住生活……755
二　食生活……771
三　衣生活……796
第四節　交通・交易……806
一　村内の道……806
二　村外からみる天龍村の道標……807
三　天龍村の馬道……808
四　道と生活……812
五　運搬……814
六　交易……815
第二章　民俗信仰……819
第一節　民間信仰……819
一　神社・祠……820
二　堂寺……826
三　特徴的な神々……831
四　石造物……840
第二節　祭りと民俗芸能……851
一　霜月神楽とおきよめ祭り……851
二　坂部の「五度の祭り」……858
三　鹿射ち・的射ち・鍬配りの祭り……864
四　神送り……870
五　掛け踊り・盆踊り……872
六　獅子舞……879
七　満島神社のお練り……886
八　その他の祭りと芸能……890
第三節　年中行事……893
一　正月の行事……894
二　春から夏の行事……905
三　盆の行事……908
四　秋から冬の行事……911
第四節　人生儀礼……913
一　誕生・成育……913
二　婚姻……922
三　死の儀礼……925
第五節　民俗知識……934

一　俗信……934
二　祈願・祈祷……940
三　民間医療……944
第六節　伝承・説話……951
一　川や池に関わる伝説……951
二　動物に関わる伝説……953
三　人物・歴史に関わる伝承……955
四　その他……958
第七節　方　言……959
一　人物呼称など……959
二　基本的な名詞……960
三　基本的な動詞……961
四　心意表現……963
五　形容詞的語彙……964
天龍村史民俗編調査協力者一覧……967

第五編　特質事項

第一章　天竜川の通運……973
第一節　天竜川……973
第二節　管流し……974
第三節　筏……978
第四節　通船……987
第五節　客船……1000
第六節　渡船と橋……1008
第二章　『熊谷家伝記』……1025
第一節　『熊谷家伝記』とは……1025
一　『熊谷家伝記』の発見と刊行……1026
二　家伝記諱之事と置状之事……1036
三　『熊谷家伝記』の虚構と成立過程……1045
四　家伝記編纂者十二代直遐……1073
第二節　『熊谷家伝記』の価値……1083

一　初代熊谷直貞と北条一族……1084
二　熊谷直実直系の熊谷氏と初代直貞血筋の熊谷氏……1105
三　熊谷貞直とその後の熊谷一族……1135
第三章　平岡ダム建設史……1173
第一節　国策としてのダム建設……1174
第二節　ダム建設に従事した人びと……1179
第三節　労働の実態……1185
第四節　捕虜収容所警備員……1193
第五節　敗戦―捕虜たちの帰国……1196
第六節　横浜裁判……1200
第七節　遺族の五十五年……1219
第八節　戦後の交流……1221
第四章　重要無形民俗文化財……1227
第一節　坂部の冬祭り……1228
一　例祭と臨時祭……1228
二　神社と祭場……1230
三　祭りをつとめる人びと……1232
四　祭りの式次第……1233
五　うたぐらと唱え事……1283
六　祭りの由来―『熊谷家伝記』を中心に―……1283
第二節　向方のお潔め祭り……1286
一　例祭と臨時祭……1286
二　神社と祭場……1289
三　祭りをつとめる人びと……1291
四　祭りの次第……1293
五　その他のうたぐらと唱え事……1326
第三節　大河内の例祭……1329
一　例祭と臨時祭……1329
二　神社と祭場……1331
三　祭りをつとめる人びと……1333
四　祭りの式次第……1334
五　その他のうたぐらと唱え事……1354
年表……1359